

全国国保医療学会 参加申し込み106人

運営委、登壇者も報告

福井市で十月に開催される第六十二回全国国保地域医療学会（県国民健康保険診療施設研究協議会など主催）の第二回運営委員会が十八日、同市の県自治会館であった。当日のプログラムや参加申込数などが報告された。写真。

学会は十月六、七の両日、アオッサとハピリンで開かれる。国保直営の病院や診療所の職員らが集まり、地域医療について探究するのが目的。医師、看護師、学生、市町職員ら千六人の参加申し込みがあった。

この日の運営委では今学会の会長を務める、おおい町の名田庄診療所長の中村伸一医師が当日のプログラ

ムについて解説した。

二〇二二年にサイバー（電脳）攻撃を受けた徳島県つるぎ町立平田病院・病院事業管理者の須藤泰史医師、福井県内のコロナ対策に尽力し地域医療にも詳しい県医師会の池端幸彦会長、救急医療の国内第一人者の一人である寺沢秀一・福井大医学部地域医療推進講座特命教授らが登壇する。

中村医師は「充実した内容になると思う。今からワ

クワクワクしている」と期待を込めた。
（藤共生）

